

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和元年度第1回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和元年6月3日(月) 午後1時10分から午後4時15分まで
- 3 開催場所 水戸市役所本庁舎 市民協働会議室こみっとルーム・501会議室
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 大野 覚, 片山 昭男, 大竹 隆志, 鹿倉 よし江, 井上 綾子,
羽石 英司
- (2) 執行機関 【市民生活課】課長 小川 邦明, 副参事兼課長補佐 海老澤 守,
協働係長 橋本 隆志, 主幹 長島 望
【市民生活課】市民活動・消費生活係長 吉田 友洋
【文化交流課】主事 平野 孝典
【農政課】企画係長 長谷川 修
【観光課】事業係長 橋崎 真哉, 主事 山崎 智史
- (3) その他 国田歴史学習会
グローバルキグループと支える会
一般社団法人茨城県健康生きがいつくり協議会
特定非営利活動法人エコ・グリーンいばらき
株式会社日宣メディックス
- 5 議題及び公開・非公開の別 協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る平成30年度
実施事業の事業報告会(公開)
全体審議(非公開)
- 6 非公開の理由 (全体審議)
- ① 公にすることにより, 当該団体の権利, 競争上の地位その他
正当な利益を害するおそれがあるため。
- ② 公にすることにより, 率直な意見の交換若しくは意思決定の
中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱
を生じさせるおそれがあるため。

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 3人

8 会議資料の名称 平成30年度実施事業の概要

9 発言の内容

【事業報告会】

事務局	(開会の挨拶, 進行についての説明)
副委員長	ただ今から, 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」の平成30年度実施事業の事業報告会を始める。平成30年度に実施した5事業について, 協働事業者と市担当課から, 事業の概要, 協働による効果, 成果などについて発表していただく。
協働事業者 市民生活課	〔発表: 国田地区の名所・史跡探訪を通した魅力再発見プロジェクト〕
委員	地域住民が主体となって事業を展開しており, 参加しやすい楽しい事業になっていると思う。平成30年度は看板設置を中心に事業を進めたとのことだが, 今後, 三の丸地区の歴史マップを参考にマップの作成も進めたいとの報告を受け, さらに楽しい事業になりそうだと感じた。これからも継続して, 地域と連携しながら, 多世代, 特に若い世代が参加しやすい取組についても考えていただけたらと期待する。
委員	私も歴史講演会に参加させていただいた。また, いくつかの看板設置個所にも訪れ, 素晴らしい事業だと感じた。その一方, 看板設置個所が分からず, 近隣住民に尋ねて, やっとの思いでたどり着くことができたので, 簡易的なマップと国田地区の全体的なマップの作成に期待したい。今後のマップ作成の計画を伺いたい。
協働事業者	まだ看板の設置予定箇所があるので, 看板設置終了後に, マップを作成したいと考えている。
副委員長	国田義務教育学校の9年生を対象に「史跡めぐり体験学習」を実施したということだが, 参加した生徒からはどのような感想や意見があったか。
協働事業者	今は存在しない三国の滝を見てみたかった, 国田地区に住んでいるのに, こんなに多くの史跡があるとは知らなかったなどの感想があった。
副委員長	将来を担う子どもたちが, 自分の住む地域のことを知ることができるという経験はとても貴重だと思う。今後も継続して事業を展開

委員	していただきたいと思う。
協働事業者	湧水は、飲用に適した水質なのか。
協働事業者 文化交流課	現在、地域住民は水戸市の水道を利用しているが、かつては湧水を簡易水道として利用していた。年に一度、上国井地域保全会という団体名で水質検査を行っており、飲用に適しているとの証明をもらっている。現在でも、湧水をくみに来る地域住民がおり、安心して飲むことができると思う。
委員	〔発表：スマイル アース プロジェクト〕
委員	国際化が進展する中で、素晴らしい事業だと思う。パンフレットはどのような形で配布したのか。
協働事業者	水戸市を通じて配布するとともに、例えば、フィリピン人やタイ人といった国籍ごとにネットワークが存在するので、そういったネットワークを通じた配布を行った。
委員	パンフレットを拝見したが、とてもよくできており、素晴らしい取組により、事業を展開していると思う。スマイルアースパーティーには、132名が参加したとのことだが、外国人と日本人の大まかな内訳はどのくらいだったか。
協働事業者	様々な国籍の外国人が参加しているが、活動を支えてくれている日本人も多く参加しており、それぞれ半分ぐらいの割合である。
委員	広報活動はどのような形で行っているのか。
協働事業者	FacebookなどのSNSを通じた広報活動を中心に行っている。また、日本人には印刷物を活用した広報活動も行っている。
委員	日本に長く在住している外国人でも、協働事業者の活動を知らない人もいると思うので、広く情報発信を行ってほしいと思う。また、両親のどちらかが外国籍の子どもや、日本人の子どもたちにもこういった活動に広く参加して欲しいと思う。
協働事業者	頑張っ活動していきたい。
委員	3年間、毎年アンケートを実施し、ニーズを掘り起こし、マップ作成を行うなど活動に反映しており、報告を聞いていても、活動がいきいきと感じられ、とても楽しかった。平成30年度は、室内での交流だけでなく、バスを利用して施設を巡るツアーを実施したことで、聞くより見るという体験が参加者にはとても有意義だったと思う。参加者からはどのような感想があったか。 また、今年度は、民間企業からの助成金を受けられることが決定したというのを聞き、これから更にステップアップして活動を行えると期待している。
協働事業者	大塚池を訪れた際、参加者からは、水戸に住んでいても、こんな

	<p>によい場所があるとは知らなかったなどの感想があった。私自身は大洗在住であるが、自分自身、バスツアーに参加し、水戸市内のさまざまな施設を知ることができてよかったと思っている。</p> <p>また、バスツアーを通じ、会員を数名増やすことができた。</p>
委員	<p>個人ではなかなか訪れにくい場所もあると思うので、このような企画の開催は有意義だったと思う。</p>
協働事業者	<p>くれふしの里古墳公園では、外国人はもちろん、水戸市内に在住する日本人もその存在を知らなかったという出来事もあり、足を運び、実体験するということの重要性を認識した。</p>
委員	<p>会費は一人あたりいくらか。</p>
協働事業者	<p>個人会員は1,500円、家族会員は2,000円の年会費である。</p>
委員	<p>会員にならないとイベントには参加できないのか。</p>
協働事業者	<p>会員にならなくても、イベントには参加できる。事前申込みも不要なので、当日、現地に来てもらえればイベントに参加できる。参加費も材料費程度にしている。</p>
委員	<p>会費が不要ならば、子どもだけの申込も可能になるなど、気軽に参加しやすくなると思う。水戸市には、引き続き支援をお願いしたい。水戸市としても、外国人の方が水戸市内に転入する際に、こういった活動をしている団体があると案内ができれば、協働して事業を実施した意味はあるのではないかと思う。</p>
協働事業者 農政課	<p>〔発表：水戸オーガニ蕎麦プロジェクト&野菜作り〕</p>
副委員長	<p>決算において、消耗品費が予算から約20万円増額になっている。何か予算管理上の問題があったのか。また、平成30年度をもって、提案制度を活用した3年間が終了したが、この3年間で踏まえて、今後どのように活動していくのか教えてほしい。</p>
協働事業者	<p>平成30年度は、約8種類の作物を栽培したため、肥料に関する費用がかさみ、消耗品費が増えてしまった。これまでの3年間で、団体としての基盤が着実に強化されてきたかと思うので、引き続き、地域と関わり合いながら、農作業を通じた活動をしていきたいと思う。</p>
副委員長	<p>消耗品費が増額することについて、予算作成時には予見不可能だったのか。</p>
協働事業者	<p>結果として、見込みが甘かった。</p>
委員	<p>企画立案に苦労している様子が、活動報告から感じられた。収穫祭の参加者は多いが、種まきや草取りといった作業への参加者が少ないように見受けられる。作業への参加率で栽培した農作物を分配する方針で活動を行っているとの報告だったが、農作業体験の楽し</p>

協働事業者	<p>さなど、主催者側の思いがまだまだ伝わっていないのだと思う。主催者の思いが伝わり、より多くの人に参加したくなるような企画が増えれば、より楽しい事業になるのではないかと思う。今後もあゆみ園との連携は続けていくとのことで、地域とつながるきっかけとなったことはよかったと思う。</p> <p>あゆみ園との連携事業は、今年度の事業計画の中でも既に予定している。また、近隣には小学校もあるので、小学校の低学年を対象に何か事業ができないかと会員内で話し合っているところである。</p> <p>農作業への参加者は退職者が中心で、若い世代の参加があまりないのが実情である。参加者数の少なさは課題であると感じているので、農作業の楽しさを理解してもらえよう努めたいと思う。</p>
協働事業者 農政課	<p>【発表：水戸の緑と野鳥の森整備事業】</p>
委員	<p>大阪出身なのだが、水戸市に転入した際、緑が多く、生物も多く生息しているという印象を受けたので、大阪府と並んで森林面積がワースト1位という報告を聞いて驚いた。</p>
協働事業者	<p>本日参加している大部分の方が、森林面積がそんなに少ないわけではないとお思いになると思うが、数字的にはワースト1位である。</p>
委員	<p>現地は、とてもよい生態系が育っていると思うので、これからも大切に子どもたちに伝えてほしいというのが、一番の願いである。一度、現地を訪れたが、かなり広大な土地であった。今後、どこからどこまでを整備していく考えか。</p>
協働事業者	<p>まだ正式に決定していないが、整備は終了とし、これからは市内の小学校を通じて、子どもたちを対象に野鳥観察会や、鳥の巣箱づくりを行いたいと考えている。</p>
委員	<p>ぜひ、子どもたちを巻き込んで、今後も活動していただきたいと思う。以前、カブトムシの幼虫取り体験の話があったが、キャッチアンドリリースではないが、自然を守るという視点からも事業を展開してほしい。</p>
委員	<p>市内に、「森のようちえん」という活動を行っている団体がある。そういった団体と連携して、子どもたちが自然体験をすることができるような場所として、現地がさらに発展していくことを期待している。</p> <p>循環型システム構築のために、専用トイレの設置についてはどのように考えているか教えてほしい。</p>
協働事業者	<p>トイレの設置については、事業を立ち上げた時から悩んでいる。現在は、近隣の建設事務所のトイレを借りることとしているが、特に女性は利用することに消極的である。</p> <p>トイレを設置するとなると、多額の費用とともに、週に1度の清掃業務も発生するため、手を回せず、近隣の市民センターのトイレも借りているのが実情である。</p>
副委員長	

農政課	<p>担当課の農政課に伺いたい。参加者をどのように拡大させていくかが今後の課題であると事業評価シートに記載しているが、これからどのように啓発活動や広報活動を行っていくか。</p>
協働事業者 観光課	<p>今年度も引き続き、協働事業者と連携して事業を進めていきたいと思っている。さきほど、___委員から提案があった「森のようちえん」などの活動を行っている団体と連携して、事業を進めていくというのも新たな発見であった。</p>
委員	<p>整備を進めている現地は、これまで不法投棄が多く、ジャングルのような、人が立ち入ることができない場所だった。今まで誰にも近寄られないような土地が、協働事業者との活動を通じて、地域住民の集まる場所として、地域の資産になりつつある。そういった展開をPRした広報活動を行えないかと協働事業者と相談している。</p>
協働事業者 観光課	<p>〔発表：谷中二十三夜尊骨董市賑わい創出事業〕</p>
委員	<p>地域の協力を得るのに3年間苦勞したと思う。毎月、「格の市」を開催できないことが、最後まで集客に影響したと報告があったが、地域との交流を今後も続けていける見込みがあるとの話も聞け、安堵している。2点ほど質問したい。まず、観光ボランティアガイドによる観光案内はどれくらいの利用があったのか。</p>
協働事業者	<p>観光ボランティアガイドについては、毎回参加してもらっていたが、開催回によっては、観光案内の利用者がいないこともあった。平均すると、1回の開催につき、10名程度の参加者がいた。</p>
委員	<p>次に、予算書と決算書の内訳が大きく変わった理由について教えてほしい。予算では、印刷製本費が一番大きな割合を占めているが、決算報告に占める割合はかなり少なくなっている。予算計画から費目を変更せざるを得なかった理由はあるのか。</p>
協働事業者	<p>予算上、印刷製本費として計上している20万円については、格の市街歩きマップの印刷に係る費用を想定していたが、その費用を、決算報告では、対象経費、対象外経費のそれぞれの委託料の一部に含めてしまっている。また、費目の名前も変更したため、複雑になってしまった。</p>
委員	<p>格の市街歩きマップの印刷に係る費用が、決算報告の中に見当たらないが、平成30年度は作成しなかったのか。</p>
協働事業者	<p>平成29年度に作成した街歩きマップの残部数があったため、平成30年度は作成しなかった。</p>
委員	<p>平成29年度に作成した街歩きマップの残部数があるにもかかわらず、予算上、印刷製本費について20万円を計上している。当初から、印刷製本費は不要ではなかったのか。</p>
協働事業者	<p>不足が生じたら作成する予定だったが、不足が生じなかったということである。</p>

委員	<p>予算と決算であまりにも費目が乖離していたため、質問した。</p>
副委員長	
観光課	<p>地域の賑わい創出ということが本事業の目的であるが、3年間事業を実施して、どのように地域の賑わいの創出につながったか具体的な手ごたえは感じているか。</p>
協働事業者	<p>今年の4月以降、保和苑へ足を運ぶと、今年度の「格の市」の開催予定について尋ねられたり、開催への要望を聞いたりすることがあり、3年間を通じて、地域に愛されるイベントになりつつあると感じている。</p>
副委員長	<p>これまで、「格の市」の開催時には、茨城県の生涯学習センターの駐車場を借りて、来場者用の駐車場としていたが、平成30年度は借用できなかった。しかしながら、「格の市」に興味を持ち、応援したいとのことで、常陽銀行末広町支店から駐車場を借りることができ、そのことから、地域の理解を得られるようになったのではないかと手ごたえを感じた。</p>
協働事業者	<p>地域住民や地元企業に関心を持ってもらうということが、事業の目的であると思うが、地域外からの集客方法、またその手ごたえについてはどのように感じているか。</p>
委員	<p>来場者からのアンケート結果を見ると、千葉県や埼玉県といった隣県からの来場者がいた。地域外については、FacebookなどのSNSを活用して情報提供を行っていたが、SNSの効果だけではなく、出店者のネットワークを通じて、県外から来場した方が多かったようだ。</p>
委員	<p>私も何度か格の市に参加させていただいた。谷中二十三夜尊とさえいって、数十年前は、動物園があるなど、非常に賑わいがある場所だったと思う。協働事業者が、そういった場所の賑わい創出に取り組んでくれたことに感謝したい。今後は更に、食や地域の歴史、伝統工芸といった視点を取り込み、これからもあじさいまつりと連携しながら、更なる賑わいの創出につなげてほしい。これからもさまざまなアイデアを出し合いながら、地域の活性化に協働して取り組んでいければと思う。</p>